

都市再生整備計画

あ か ま え き し ゅ う へ ん

赤間駅周辺地区

ふくおか

福岡県

むなかた し

宗像市

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	■
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	□
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	□
まちなかウォーカブル推進事業	□

都市再生整備計画の目標及び計画期間

様式(1)－②

都道府県名	福岡県	市町村名	むなかた 宗像市	地区名	あかまきしゅうへん 赤間駅周辺地区	面積	10.6	ha
計画期間	令和	7	年度	～	令和	11	年度	
					交付期間	令和	7	年度
						～	令和	11
							年度	

目標
大目標:「コンパクトで魅力的な地域がネットワークする生活交流都市」の形成 目標1:交通結節機能の強化及び充実 目標2:利便性が向上し、さらに安全・安心で快適な住環境の創出
目標設定の根拠
都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針)を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。 宗像市では、市中央を貫流する釣川沿いの農地を保全し、後背の丘陵部を中心に住宅地開発が行われてきたため、市街地や主要都市機能が分散立地している。そのため、一極集中ではなく、地域の特性を踏まえた多極連携の集約型都市構造を形成することとしている。また、中心拠点として位置づけられているJR赤間駅周辺は、通勤・通学者や宗像大社をはじめとした観光資源への来訪者等、人々の往来が活発であり、本市の玄関口として重要な役割を担っている。こうしたことから、JR赤間駅を中心とした市街地において、商業や医療、福祉機能等の高次の都市機能を集積するとともに、市域全体への広域的なサービスの供給を図ることとしている。また、市内各地に点在する生活拠点や地域・生活中心への交通ネットワークを形成する結節点であって、目指すべき都市の骨格構造を形成する上で重要な役割を果たしている。 このことから、中心拠点かつ重要な交通結節点であるJR赤間駅において、駅の利便性向上や駅へのアクセシビリティ向上等を推進するため、駅前広場や歩行支援施設を整備することにより、ゆとりある歩行空間等を形成し、「歩いて暮らせるまちづくり」の推進及び安全・安心で快適な住環境の形成を図る。
まちづくりの経緯及び現況
宗像市では、「第2次宗像市総合計画」において、将来像の実現に向けた施策の一つに「公共交通の利便性の向上」を掲げ、交通結節点へのパークアンドライド機能の整備及び駐車場や駐輪場等の駅周辺やバス停周辺の機能維持・整備に取り組むこととしており、これに則して策定された「第2次宗像市国土利用計画」では、中心拠点(JR赤間駅周辺)において、一層の機能強化と利便性の向上を図ることにより、環境負荷の少ない集約型の都市構造を形成するため、地域特性の顕在化に寄与する機能強化に努めるとともに、市内外から拠点等への円滑なアクセス及び快適な道路空間を形成し、都市イメージの向上に資するまちづくりを推進するとしている。あわせて、「第2次宗像市都市計画マスタープラン」及び「宗像市立地適正化計画」では、多様な都市機能や人口が集積し、公共交通を利用し、容易にアクセス可能な地区としてJR赤間駅周辺を中心拠点に、JR東郷駅周辺及び市役所周辺を拠点に定め、これらの拠点を中心に都市機能誘導区域及び居住誘導区域を設定するとともに、拠点同士を繋ぐ公共交通軸を設定し、目指すべき将来都市像「コンパクトで魅力的な地域がネットワークする生活交流都市」に向けたまちづくりの取り組みを推進している。 赤間駅周辺地区(以下、「当地区」という。))は、本市の玄関口であるJR赤間駅を中心とした地区であり、中心拠点として高次の都市機能が集積した地区である。当地区の南北地域を結ぶ赤間駅自由通路南北線は、JR赤間駅の利用者のみならず、地域住民をはじめとした人々の往来が活発な歩行空間である。ベッドタウンとして発展を遂げてきた宗像市では、人口が微増傾向にあり、市内の観光資源への来訪者も多数いることから、今後もJR赤間駅は主要な交通結節点として、目指すべき都市の骨格構造を形成する上で中心的な役割を担うこととなるが、通勤・通学者の送迎等を目的とした駅周辺での停車車両による混雑は慢性化しており、円滑な交通インフラを確保することで、駅利用者の利便性の向上を図る必要がある。あわせて、多様な世代が安全・安心で快適に暮らせる住環境を確保するため、「歩いて暮らせるまちづくり」の推進に向けたバリアフリー環境の整備、ゆとりと賑わいのある空間の形成等にも取り組む必要がある。
課題
・本市の中心拠点としての個性や回遊性、市内各所及び周辺市町村からのアクセシビリティが十分とは言えない。 ・幹線交通及び支線交通によるJR赤間駅までの交通ネットワークは、通勤・通学時のニーズに合ったものではなく、送迎や駐車負担を伴っている。 ・高齢者や子育て世代をはじめとした多様な世代のニーズに対応した駅利用環境の整備が十分とは言えない。
将来ビジョン(中長期)
①第2次宗像市総合計画(平成27年度策定) ・本市の将来像を「ときを紡ぎ 躍動するまち」と定め、その実現に向けた施策に「都市再生の推進」、「都市基盤の整備」、「公共交通の利便性の向上」を掲げている。 ②第2次宗像市国土利用計画(平成27年度策定) ・市土利用の基本方針の一つに「地域特性が見える拠点等の整備」を設定し、各拠点等において、一層の機能強化と利便性の向上を図ることにより、市街地の拡大を抑制し、環境負荷の少ない集約型の都市構造を形成するため、地域特性の顕在化に寄与する機能強化に努めるとともに、市内外から拠点等への円滑なアクセス及び快適な道路空間を形成し、都市イメージの向上に資するまちづくりを推進することとしている。 ③第2次宗像市都市計画マスタープラン(平成27年度策定) ・都市づくりの理念を「宗像版集約型都市構造の形成」とし、目指すべき都市像を「コンパクトで魅力的な地域がネットワークする生活交流都市」と定め、駅や地域との交通ネットワークの充実や、日常的に人が集まる場所の安全性、快適性、利便性の向上を図り、誰もが歩いて暮らせるコンパクトな生活空間づくりや子育て世代が本市で暮らしたくなるような都市を目指すこととしている。また、駅周辺における医療・福祉の充実、賑わいのある街を楽しむ場づくりなど、市民の暮らしや文化を豊かにする機能が集まった拠点のある都市を目指すこととしている。 ④宗像市立地適正化計画(平成30年度策定) ・都市のコンパクト化を図り、人口減少・高齢化社会に対応した、利便性が高く、効果的で効率的な都市経営を実現し、長期的にも都市活力が維持できる、持続可能な都市を目指すため、多様な都市機能が集積し、公共交通への乗り換えが可能な交通結節点であるJR赤間駅周辺を中心拠点に設定し、本市の顔として生活、文化、アメニティ機能に富んだ魅力的な都市空間の形成を目指すこととしている。 ⑤宗像市地域公共交通計画(令和6年度策定) ・本市の地域公共交通の基本理念を「“定住都市むなかた”を支える共創型交通網」と定め、市外への高いアクセス性を確保する地域公共交通軸の維持・充実を図るため、JRの利用環境・駅へのアクセスの向上、パークアンドライド利用環境の改善に取り組むこととしている。

都市構造再編集 都市機能配置の考え方 ・赤間駅周辺地区は、本市の中心拠点として広域的な役割を果たすとともに、既に都市機能が集積しているため、今後は市域全体へのサービス能力を持つ高次の商業・業務、医療・福祉機能の充実を図る。 ・JR赤間駅は、電車やバス等の交通結節点として公共交通のアクセス性が高い拠点であり、市内外からの来訪者も多いため、市内各地の観光資源を活用した都市間交流拠点の形成を図る。あわせて、高齢者等の交通弱者の居住を推進するため、公共交通の維持・充実を図る。
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等 都市再生土地区画整理事業や都市・地域交通戦略推進事業の特例を受ける場合は当該事業の概要、位置づけを記載。

目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
駅前広場内における停車車両台数の減少率	%	JR赤間駅北口及び南口の駅前広場内における停車車両台数の減少率	通勤・通学者の送迎等を目的とした駅前広場内における停車車両台数の減少を、「交通結節機能の強化及び充実」の成果指標とする。	0	R6年度	20	R11年度
JR赤間駅の乗車人員数	人/日	JR赤間駅における一日当たりの乗車人員数	JR赤間駅での乗車人員数の増加を、「利便性が向上し、安全・安心で快適な住環境の創出」の成果指標とする。	7,275	R4年度	8,140	R11年度
赤間駅周辺地区における転入率	%	土穴自治区及び栄町自治区における人口に対する転入者数の割合	土穴自治区及び栄町自治区における転入率の上昇を、「利便性が向上し、安全・安心で快適な住環境の創出」の成果指標とする。	4.65	R4年度	5.12	R11年度

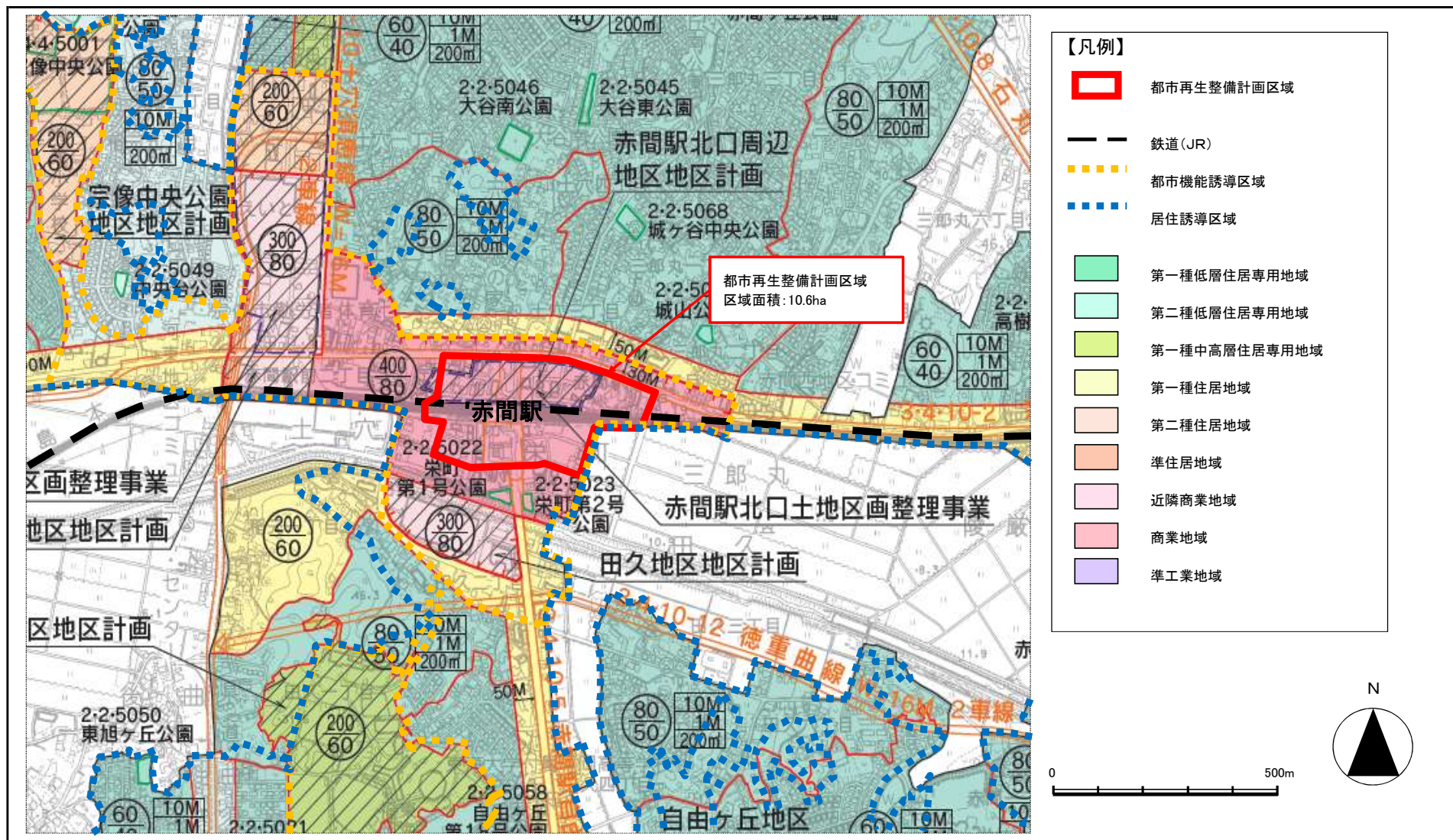
赤間駅周辺地区(福岡県宗像市)

面積

10.6 ha

区域

赤間駅前1丁目の一部、栄町の一部



都市構造再編集中支援事業事前評価シート

計画の名称: 赤間駅周辺地区都市構造再編集中事業 事業主体名: 宗像市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	○
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	○
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	○
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	○
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	○
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	○
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	○
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	○
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	○
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	○
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	○
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	○
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	○
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	○
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	○
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	○
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	○